

# チームワークの重要性 ～アナウンサーが見聞きした組織論～



YMFGもみじビジネスフォーラム2018(呉)

元フジテレビアナウンサー ふくい けんじ  
福井 謙二

2018年11月26日、クレイトンベイホテル(呉市)にてYMFGもみじビジネスフォーラムを開催しました。講師は元フジテレビの福井謙二氏。「プロ野球ニュース」や「料理の鉄人」などの番組で知られる名アナウンサーに学ぼうと、約150社の皆さんが集まりました。

## 関東でもカープファン貫く

私も妻も広島生まれの広島育ちで、夫婦そろって根っからのカープファン。カープと広島県民の強いつながりは、最高にかっこいいと思っています。昨年まで担当していた文化放送の「福井謙二グッモニ」では、月曜から金曜まで「カープ」「カープ」と連呼。関東ではなかなかカープの話題に接する機会がないため、在京のファンには好評をいただきました。カープ愛が文化放送にも通じ、日南のキャンプにも取材に行かせてもらいました。カープの選手はとて感じがよく、ファンならずとも好きになってしまう人ばかりです。

私が「プロ野球ニュース」のキャスターを務めた1990年代を振り返ると、プロ野球選手には一筋縄でいかない人が多かったですね。日によって対応に波

があり、回答を引き出すのが難しかった清原和博さん。落合博満さんは「調子がいいですね」と尋ねると「じゃ、いいんじゃないですか」と、つかみ所のない返事が返ってきました。イチローさんから本音を引き出すには的を得た質問をする必要があります。インタビュー前は緊張したものです。今はちょっと変わったことを言うとツイッターが炎上してしまう時代ですが、当時はもっと自由だったと思います。個性あふれる名選手に鍛えていただき、インタビュアーとして充実した仕事をさせていただきました。

## 連携プレーで生まれた名番組

フジテレビ時代を振り返ると、和洋中の名料理人が挑戦者と闘う「料理の鉄人」は思い出深い番組です。



一流料理人の技と、スタッフのチームワークで育て上げました。解説の服部幸應先生をはじめ、フードコーディネーター、照明、レポーター、カメラマンなど全員が、司会の鹿賀丈史さんの「アレ・キューズ！」を合図に行動開始。1時間ノンストップでぶっつけ本番のクッキングバトルを撮影しました。私もテンションを上げて、プロレス中継風に「出ました、豆板醬であります！」と絶叫アナウンス。総力を結集して作り上げた番組は、高視聴率をマークし続けました。

プロ野球中継でも、チームワークは非常に大事です。神宮球場でのヤクルト-巨人戦は忘れられません。7回が始まる前に、カメラマンがブルペンで投球する桑田真澄選手をキャッチ。負けられない一戦ということで、先発投手の桑田選手が、終盤を守り切るためにピッチング準備を始めた瞬間でした。カメラマンが気付いて撮影し、モニター係が画面を切り替え、さらに別のカメラマンが三塁側のベンチを映して巨人の監督を追う。音声さんがブルペンの音を取って桑田の動向を伝える。そして解説者が即座に監督の意図を分析し始めるという、鳥肌が立つほど高いレベルの中継ができました。

1988年のソウルオリンピックでは、女子柔道の中継を初めて担当。勉強をしたものの、生中継で決まり技を瞬時に言える所までは達しませんでした。そこで解説者と相談して、「これは」と私が言ったら解説者が技名を言うという、連携プレーで乗り切りました。

フジテレビでアナウンサー室長を拝命してからは、男性35人、女性35人をまとめる立場に。管理職として、高島彩や中野美奈子といった人気アナウンサーにばかり仕事が集中しないように、プロデューサーと交渉しました。また前室長から「特に女性はえこひいきに厳しいぞ」と聞いていましたので、心掛けたのは付き合いの均等化。誰か一人を食事に連れていくと、他の人は「私は福井さんに嫌われている」となってしまうから。また、早朝のニュースを担当するアナウンサーに「今朝の放送、アクセントが違ってたよ」と伝えると、うれしそうにしていました。視聴率が低い枠を受け持ってくれている人にも「私はあなたを見てい



元フジテレビ  
アナウンサー

ふくい けんじ  
**福井 謙二**

#### ■プロフィール

1953年9月生まれ、広島市南区出身。修道中学校・高校時代には放送部に所属。76年慶応義塾大学を卒業後、同年4月にフジテレビに入社。「プロ野球ニュース」や「料理の鉄人」などを担当。作詞作曲を特技とし、自身のCDデビュー曲や高島彩アナウンサー、中野美奈子アナウンサーのユニット曲も作曲している。2013年9月に同社を退職後フリーに転身。文化放送でラジオのレギュラー番組「福井謙二グッモ二」を担当した。

る」というメッセージを発することで、意欲を引き出しました。実のところは、遅くまで酒を飲んで、朝帰りをしてテレビを付けたら、ちょうどニュースをやっていたのですが…。

野球チームでいえば、わがカーブのチームワークは素晴らしい。カーブのバッターは三振に倒れた時、次のバッターにピッチャーの癖などを伝えます。他球団では、こういう姿はあまり見られません。他の選手が活躍するということは、自分の出番が減ることだからです。カーブには新井貴浩さんという、誰が活躍しても自分のことのように喜ぶお手本がいました。仲間思いで常に全力プレーの新井さんを見習って、若手も本当のチームプレーができています。

広島に生まれてよかったと実感するのは、妻と一緒に夕方6時からビールを開けて、カーブの試合をテレビ観戦する時。「ゲッターだ」「ホームランだ」と勝っても負けても、カーブがあるから毎日が楽しくなります。ふるさとは私の誇り。「広島」の一言で心が熱くなります。「チームひろしま」として広島に縁のある皆さんが団結し、地元を盛り上げていきましょう。

(文責 ワイエムコンサルティング株式会社 研修・会員事業部)